

道路ユーザーネットワーク広場

NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK NETWORK



宗谷半島に到着した最大群衆のスーパーカブ110で参加の佐藤敦子さんと再会、感動で抱き合う。



全作の風間深志さん、9月には九州で「サクザン500」も開催、来年は1000キロクラスのイベントも思案中とか。



帰りの美談で、有機農業を営む友達のスチーフアンさんと香代子さんと15年ぶりの嬉しい再会。

この北海道ツーリングの原稿を書こうと思った矢先の9月6日、胆振地方中東部で震度7の地震が発生しました。台風25号の影響で関西方面が凄まじいダメージを受けている災害、そしてまだ余震が懸念される中であり、とても心が痛みます。一刻も早くライフラインが回復し、被害に遭われた方々が元の生活に戻れますように祈るばかりです。

ほんの3週間前のベストシーズン。バイクで行く久々の北海道は、天国でした。たとえタコ殴りの雨に遭おうとも、変わらず広大な景色と温かい人のおもてなし。そしてほぼ100パーセントの返答率のYAEH!(ヤエー。かつてのピースサインが今ほこう呼ばれて健在)や美味しい食べ

ものが、旅人の心と体をどこまでも癒してくれました。今回は、冒険家の風間深志氏が提案し、地元市町村が大歓迎してくださる第2回目のイベントがあるというので、900ccのトライアンフで参加することにしました。道東の別海町で「最東端ミーティング」、翌日には納沙布岬から宗谷岬まで走る「ノーザン500」、そして最終日は「最北端ミーティング」。札幌からほど近い石狩特別に住んだことがあり、20代は年に2回はツーリングしていた北海道。間違いなく故郷のひとつなのですが、バイクで来たのは2003年が最後。還暦過ぎてということもあり、不安がなかったといえは嘘になるのですが、やって来てみれば、それが杞憂だった

ことが分かりました。北海道全然変わってない! 相変わらず自然は濃く、人々は旅人に優しい。でも、北海道すっかり変わってる! 小樽から別海町まで一気に移動したのですが、道東自動車道が更に伸びていてビックリ。他の道もとにかく綺麗になりました。40年前にはあちこちに点在していた舗装前のパラソル地獄は流石にならなくなっていました。ここまで整備されていたとは! という訳で、久々の長距離は楽々。松本、新潟、フエリーで小樽、納沙布岬、宗谷岬、富良野、小樽、フエリーで新潟、松本までの8日間、トータルで走った距離は2322キロですが、もっと走れそうなくらいパワーチャージされてきました。

実は私は晴れオンナ。イベント開催時はもちろん快晴。全国から集まった約185名のライダーたちも、ずっと笑顔でいい交流ができました。たご仲間がいてもバイクを操るのは独り。台風後で風速数メートルでも、気温が10度を切りそうになっても、ひたすら耐えて前に進みます。何しろのアクシデントは、みんなあったはず。明け方に鹿に衝突した人は、カウルの部品を失ったものの、無事宗谷岬に着きました(鹿も無事)。私が敢えて回避した知床岬のCP(チェックポイント)は、濃霧と強風で地獄だったと泣き笑います。参加者たち(ちよっと嬉しそう)。荷物が重過ぎて偏り、サイドスタンドを出した途端に転倒した人。スタート直後にナビに37度超えて死にそうに暑かったこと。2番目は、タコ殴りの道東の高速のトンネルが、入るたびにシールドが曇り、生目で走らねばならなかったこと(湿度が高いとバイクは辛い)。3番目は、素晴らしい景色の写真が全然撮れず、走りながら目に焼き付けたこと。

1分ごとに止まりたかった。楽しかったのは、参加者たちと出会うこと。かつての仲間や恩師など知り合いにも次々と再会できたこと。帰りの雨で土産もぐくに買えなかったけれど、心へのお土産は溢れかえった。やっぱり北海道はサイコー! 「観光復興支援隊」、またバイクで出動しますよ!

次から次と大きな災害が襲ってきます。正直、もういい加減にしてくれ。と手を合わせて祈る事しかできないのか、いやいや、そんな弱気ではない。何とかなければならぬので、自分もその流れに流されて立ち向かう。自分もその流れに流されて立ち向かう。自分もその流れに流されて立ち向かう。

時も早い復が役に立つんじゃないかと再建を!。勿論、返礼など必要な願う思いは「ふるさと納税」です。常に持ってこれる「ふるさと納税」は、復元の中の愚案だと去った。思っていました。蛇のように波打った道場所であれ、液状化で田んぼに埋まれば、再び訪れたような車、一瞬で広大な山々など、自然の恐ろしさを目の当たりにした。被害が表に現れなかった。被災者が表に現れなかった。被災者が表に現れなかった。被災者が表に現れなかった。

「自動車の時代」を考慮したアメリカのラドバインにおける設計思想には、クラレンス・ペリーによって提唱された「近隣住区論」が見えがくれています。この近隣住区論(原題: The Neighborhood Unit)は、ニューヨーク大都市圏計画の基礎資料として1927年、31年にかけて発表された全8巻の報告書の一論文で、様々な議論があるものの、現在でもユニティ計画において参照されています。

ペリーは、当時のアメリカにおける自動車の普及とそれに伴う広幅員の高速道路や幹線道路の建設の中で、近隣住区原則やユニティ形成の重要性を美

「たご距離を走るだけで楽しいのかな。ゆっくり旅した方が楽しいのでは」と思わないでもなかったのですが、想像を超えて楽しかったのは、おそらく自然と道仲間のお陰でしょう。一番苦しかったのは、新潟からの帰りがフェーン現象で37度超えて死にそうに暑かったこと。2番目は、タコ殴りの道東の高速のトンネルが、入るたびにシールドが曇り、生目で走らねばならなかったこと(湿度が高いとバイクは辛い)。3番目は、素晴らしい景色の写真が全然撮れず、走りながら目に焼き付けたこと。

ハット 思い出しました

人は日がたてば、忘れていくもので、でも、それが、先に記したメディア等のスケジュール?で踊らされてはいないだろうか。

「ハット」

「思い出しました」

「ハット」



網走のCPで再会した参加者。濃霧の知床に泣いたそう。

三好礼子 エッセイスト・元国際ラリスト ~ http://www.fairytale.jp/~



ライダーの聖地、中標津町の「開陽台」までツーリングした後、別海町で最東端ミーティング。BBQで盛り上がる。



宗谷岬の真上で最北端ミーティング。ミニツーリングした風間深志さんや小樽の山道は、今回のベストだったかも!

★三好礼子の★ ナチュラル・ロード

「自動車時代の都市」を考慮したアメリカのラドバインにおける設計思想には、クラレンス・ペリーによって提唱された「近隣住区論」が見えがくれています。この近隣住区論(原題: The Neighborhood Unit)は、ニューヨーク大都市圏計画の基礎資料として1927年、31年にかけて発表された全8巻の報告書の一論文で、様々な議論があるものの、現在でもユニティ計画において参照されています。



「ハット」

「思い出しました」

「ハット」

「思い出しました」

「ハット」

